

## 日本発オーストリア便り～音楽の都再び

大学生になって、初めて海外旅行に出かけてから、旅行の記録として、いつ・どこに・何日・どの飛行機で・だれと・どこに泊まって・何を見た、といったごく簡単ことを記録しています。それくらいの簡単なデータでも意外とその旅行のことをしっかり思い出すから不思議なものです。改めて、記録を見てみたのには、理由があります。

ウィーンに行くのが今回で何回目だったか調べるためです。

なんと…。大学時代に初めてこの街を訪れてから、24回でした。やっぱり驚きです。

気に入った街には複数回行ってしまう、という傾向にあります。他に二桁以上いった街がないのを見ると、やっぱり私のウィーン好きは半端じゃないです。(あとはミュンヘンとケルンに8回、ベルリンが6回。やっぱ、ドイツばかりですね。)

ウィーンは純粋に「観光客」としての訪問なので、いまや、大阪以上に詳しいかもしれません。で、それだけ行っても、やっぱりまた行きたい(帰りたい?)!と思う理由の一つが、私の場合は、やっぱり「音楽」です。その中でも特に、最高に贅沢な芸術である、オペラ!日本でも、有名なオペラハウスの引越し公演は、数多くありますが、やっぱり、劇場とその雰囲気はどうしてもその場にいないと味わえないです。

今回もただでさえ激な日程にもかかわらず、オペラを一本!

帰国の一日前。オペラの開演が20:00。ケルンから4キロのアスパラを抱えて、ウィーンに帰ってきたのが17:00頃。ホテルに18:00ごろ着いて、まずは「アスパラ保存作業!」(濡れ新聞にくるんで、保冷バックに入れて、冷蔵庫で保存というもの)慌てて早めの夕食(その日はWiener Schnitzel:ウィーン風仔牛のカツレツ)ホテルに帰って、着替えて飛び出したのが19:30!ホテルからオペラ座までは、地下鉄で一駅。席に着いたのが19:45という慌しいものでした。



今回は、ちょっと気合を入れて、ドレスアップしていきました!久々に筆者登場!どうだ!

ちなみに、ウィーンのおペラ座ではこのくらいでは、ぜんぜん浮きません。  
こんな格好でくる日本人は多少珍しかったかもしれませんが…。



いつきても素敵な劇場の入り口です。  
前回は、チケットが取れず、外で聞く。ということだったので、実に、中で聞くのは1年半ぶり。



毎年変わる緞帳、今年はこのなものでした。去年の「耳と朝食」に比べたら格段に良いですが、  
うーん、あんまり面白くないなあ…。



開演前の様子。みんな公演への期待で一杯です！

今回のお席は の丁度反対側のあたり。(舞台に向かって、右手側)でした。  
この Loge (ロージェ) と呼ばれる、ちょっとした個室みたいな席がお気に入りです。



プログラムを購入。ざっとあらすじと出演者をチェック。

演目は、シュトラウスの「エレクトラ」、上演言語はドイツ語です。

ギリシャ悲劇というか、復讐劇で、歌詞も生々しくぞっとするようなものが多いです。休憩なしで、約2時間という短いものでしたが、最初から最後まで、密度も緊張感も高いオペラでした。

指揮者・出演者もすばらしく、鳥肌ものでした。やっぱり来てよかった！

終焉後はいつものコース。お気に入りのカフェで余韻に浸って、それからホテルに帰りました。

オペラ座では、シーズン中(9月から6月)のほぼ毎日、オペラまたはバレエを上演しています。この数年は子供向けのオペラなども上演され、オペラの普及にも力をいれているようです。ちょうどこれを書いている6月1日から、シーズン2007/2008の前売りとキャンセル待ちの受付が開始されました。

もう5月には2007年9月から2008年6月までの演目と出演者がすべて発表されます。(バレエに関しては、演目だけで出演者は後日です。)

私も演目を見て、「これ聴きたい！」というのはいくつかあるのですが、さすがにその公演にあわせて休みを取る、というのはなかなか難しく、やっぱり来シーズンも、「行くぞ！」と決まったら、聴けるチケットを取る。ということになりそうです。(ってことはまた行くんですね…。)

日本ではまだまだ「クラシック」とか「オペラ」と聞くと、「敷居が高い」とか「退屈」と決め付ける人が多いようです。そんな人にこそ、「せっかく本場なんだから」という理由でもなんでもいいから、是非一度劇場に足を運んで、オペラを見て、この雰囲気味わってほしいなあ、と思います！

ところで芸術の街ウィーン。毎年、シーズン終わりには、シェーンブルン宮殿の庭園で、Wiener Philharmoniker (ウィナー・フィルハーモニー：ご存知ウィーンフィルです。)のコンサートがあるんです。なんと、入場料は無料！かしこまって聴くだけが、クラシックの聴き方ではないんです。良い演奏を楽しく聴けばいい！そんなメッセージが伝わってきそうです。一度行ってみたいものです。

夏の観光シーズンは、オペラはオフシーズンとなります。その間も各地で「音楽祭」という形で(有名どころはバイロイトとかザルツブルクの音楽祭とか。)一年中どこかで音楽が聴ける。改

めて文化レベルの高さというか、浸透具合にはうらやましい限りです。

よし！一回行くぞ！と思った方は、是非ご相談ください！

以上、書いている途中で、えらく熱くなってしまった、音楽の街レポートでした。



ウィーン国立歌劇場です。